

「イスラエルが受けた 祝福はどこへ？」

民数記14章26～38節

1



2

イスラエルの祝福はどこに行った？

3

14:26【主】はモーセとアロンに告げられた。14:27「いつまで、この悪い会衆は、わたしに不平を言い続けるのか。わたしは、イスラエルの子らがわたしにつぶやく不平を聞いた。14:28 彼らに言え。わたしは生きている—【主】のことば—。わたしは必ず、おまえたちがわたしの耳に語ったとおり、おまえたちに行く。14:29 この荒野におまえたちは、屍をさらす。わたしに不平を言った者で、二十歳以上の、登録され数えられた者たち全員である。14:30 エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかに、おまえたちを住まわせるとわたしが誓った地に、だれ一人入ることはできない。14:31 おまえたちが『かすめ奪われてしまう』と言った、おまえたちの子どもについては、わたしは彼らを導き入れる。彼らはおまえたちが拒んだ地を知るようになる。14:32 しかし、おまえたちはこの荒野に屍をさらす。

4

14:33 おまえたちの子どもは、この荒野で四十年の間羊を飼う者となり、おまえたちがみな、屍となるまで、おまえたちの背信の責めを負わなければならない。14:34 おまえたちが、あの地を偵察した日数は四十日であった。その一日を一年と数えて、四十年の間おまえたちは自分の咎を負わなければならない。こうして、わたしへの反抗が何であるかを思い知ることになる。14:35【主】であるこのわたしが言う。一つになってわたしに逆らったこの悪い会衆のすべてに対して、わたしは必ずこうする。この荒野で彼らは死に絶える。14:36 また、モーセがああ地の偵察のために遣わした者で、帰って来て、その地について悪く言いふらし、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちもだ。14:37 こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、【主】の前に疫病で死んだ。14:38 しかし、あの地を偵察しに行った者のうち、ヌンの子ヨシュアと、エフネの子カレブは生き残った。

5

イスラエル(教会)を荒野で支配していたのは？

- アロンとその子らが、**わたしの名をイスラエルの子らの上に置くなら、わたしが彼らを祝福する。** 民6:27
- 旧約と新約の「約」は契約の「約」。契約関係を表す言葉。生きた神との生きた関係。
- 神が求めるのは関係。楽して救われる宗教システムを提供することではない。
- 自分たちの上に神よりも問題を置いた。問題に支配された。口から出るものは、つぶやき。
- 問題にぶつかるたびに、つまずき、つぶやいた。

6

イスラエル(教会)を荒野で支配していたのは？

- 自分たちの上に、神よりも自分たちを置いている。自分たちの考えの方が大事であり、上。自分という問題に気が付かない。
- 約束の地に送った偵察隊12名の内10人は、神のことはより、自分たちの経験や判断を頼りにした。
- **心を尽くして【主】に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。** 箴3:5
- 多数決が間違ふこともある。理屈でもない。神への信頼と従順。私たちは自分たちの素晴らしい理屈、発見で生きているのではない。発見は創造者、デザイナーの素晴らしさを教えてくれる。DNA、大気圏、オゾン層、太陽、水、、、それらがなければ死んでしまう。

7

荒野のイスラエル(教会)から学べること

しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし**確信と、希望による誇り**を持ち続けさえすれば、そうなのです。ですから、聖霊が言われるとおりに。「今日、もし御声を聞かぬら、あなたがたの心を頑なに立てはならない。荒野での試みの日に神に逆らったときのように、あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。だから、わたしはその世代に憤って言った。『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れない。』」兄弟たち。あなたがたのうちに、**不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる者がいないように気をつけなさい。**「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑にならないようにしなさい。私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし**最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。** ヘブル3:6-14

- 継続は力なり、救いなり。

8

荒野のイスラエル(教会)から学べること

しかし、彼らの大部分は神のみどころにかなわず、荒野で滅ぼされました。これらのことは、私たちが戒める実例として起こったのです。彼らが貪ったように、私たちが悪を貪ることのないようにするためです。あなたがたは、彼らのうちのある人たちのように、偶像礼拝者になってはいけません。聖書には「民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた」と書いてあります。また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、淫らなことを行わないようにしましょう。彼らはそれをして一日に二万三千人が倒れて死にました。また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、キリストを試みることのないようにしましょう。彼らは蛇によって滅んでいきました。また、彼らのうちのある人たちがしたように、不平を言ってもはいけません。彼らは滅ぼす者によって滅ぼされました。これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。ですから、私の愛する者たちよ、**偶像礼拝を避けなさい。** 1コリント10:5-14

9

荒野のイスラエル(教会)から学べること

- 彼らはホル山から、エドムの地を迂回しようとして、葦の海の道に旅立った。しかし民は、途中で我慢ができなくなり、神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。われわれはこのみじめな食べ物に飽き飽きしている。」そこで【主】は民の中に燃える蛇を送られた。蛇は民にかみついたので、イスラエルのうちの多くの者が死んだ。民はモーセのところに来て言った。「私たちは【主】とあなたを非難したりして、罪を犯しましたどうか、蛇を私たちから取り去ってください。すると【主】はモーセに言われた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗さおの上に付けよ。かまれた者はみな、それを仰ぎ見れば生きる。」モーセは一つ青銅の蛇を作り、それを旗さおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。 民数21:4-9
- **モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。** ヨハネ3:14-15

10

荒野のイスラエル(教会)から学べること

- 欲望という偶像、自分(や自分の考え)という偶像、富という偶像、高ぶりに注意
- 不平不満、つぶやきに注意。
- また、モーセがああ地の偵察のために遣わした者で、帰って来て、**その地について悪く言いふらし、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちもだ。」**こうして、その地を悪く言いふらした者たちは、**【主】の前に疫病で死んだ。**しかし、ああ地を偵察しに行った者のうち、**ヌンの子ヨシュアと、エフネの子カレブは生き残った。** 民数14:36-38
- つぶやき、ことばが人を滅ぼすインフルエンサーに注意、インフルエンサー=影響に注意。

11

荒野のイスラエル(教会)から学べること

- 「お茶飲まずおばあさん」
- **イスラエルをエジプトから出すよりも、エジプトをイスラエルから出すほうがはるかに難しい。**
- イスラエルの祝福はどこに？
- その家に入るときには、平安を祈るあいさつをしなさい。その家がそれにふさわしい家ならその平安はきっとその家に来るし、もし、**ふさわしい家でないなら、その平安はあなたがたのところに戻って来ます。** マタイ10:12-13
- とどまること。継続は救いなり！
- 連続ドラマ「つまずき」にならないように注意

12

詩103:2

- わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
- 民数記のつぶやき
- 民11:6 何もなくて、このマナを見るだけだ。
- 民21:5 私たちはこのみじめな食物に飽き飽きした。